

# 金城三偉人ウォーキングコース整備事業 ～先人の知恵や努力を気軽に学べるまちづくり～

浜田市公民館連絡協議会金城自治区会  
(金城自治区 6 公民館連合会)

## 1 金城自治区 6 公民館の概要

浜田市の南に位置する金城自治区には、雲城公民館、小国公民館、波佐公民館、今福公民館、久佐公民館、美又公民館がある。浜田市として合併する前の金城町時代には、各公民館のある地域にそれぞれ小学校があり、互いに密接な関係を持ちながら地域文化の中心となり諸活動を展開していた。しかし、合併後は雲城、今福、波佐の 3 地域に小学校が統合された。そのため小国、久佐、美又地域は公民館が地域文化活動の中心拠点となっている。

金城自治区の 6 公民館は、それぞれの地域性や特性をもちながらも、互いに協力・連携しながら金城地区の歴史と活性化を考えた公民館活動を展開している。

## 2 事業の概要

### (1) はじめに

① 実証事業名 金城三偉人ウォーキングコース整備事業  
～先人の知恵や努力を気軽に学べるまちづくり～

### ② 実証事業のテーマ

「人の生きざまこそ地域の宝・金城三偉人を知り伝える  
—郷土の誇りは『地域力』のエネルギー源—

金城には、岡本甚左衛門、能海 寛、島村抱月という「金城三偉人」と称される人物がいる。しかし、3 人の功績が十分に理解され、住民の誇りになっていない現状がある。そこで、3 人の功績を気軽に学び伝えられるしくみを作ることで、ふるさとへの「誇り」を次世代に引き継げるようにしたい。

### ③ 実証事業のねらい

ゆかりの地に案内板の設置及びウォーキングコースの絵地図や誘導矢印を設置することで、次のことをねらう。

ア 地域に人のにぎわいを創生

イ 家族でのふれあいの機会の提供

ウ 案内ボランティア養成講座開催による「ふるさと自慢」の喚起

### (2) 具体的な取組

#### ① 岡本甚左衛門ウォーキングコースの整備

平成 20 年度は、「岡本甚左衛門のウォーキングコース」を整備した。そのために、まず岡本甚左衛門とその子新右衛門、孫与一郎の親子三代が 1823(文政 6 年)から 1873(明治 6 年)にかけて開拓した地域に、現に住んでいる人々の理解を得るため説明会を実施した。さらに案内板などを設



置するため、地主の了解を得た。そして、大型案内板5基、小型案内板7基、誘導矢印を設置するとともに絵地図を作成した。

これによりウォーキング大会の実施はもとより、グループや家族単位で岡本甚左衛門の業績を気軽に訪ねることが可能になった。あわせて岡本甚左衛門は浜田市小学校社会科副読本に「郷土を開いた人物」として紹介されているため、現地での学習がより充実するようになった。



## ② 岡本甚左衛門案内ボランティア養成講座の実施

公民館主催の講座として、案内ボランティア養成講座を開催し、地域の方に広く声をかけた。岡本甚左衛門の業績や歴史的背景など全体像を把握した後、実際に現地に出かけて学習する機会をもった。

## ③ 岡本甚左衛門ウォーキング大会実行委員会の開催

浜田市教育委員会金城分室、金城中学校、雲城小学校、金城自治区6公民館館、雲城公民館運営推進委員、ゆかりの地関係町内会長、くもぎ自治会長、むらじまん甚左衛門、甚左衛門太鼓、きんたの里等で構成した実行委員会を開催し、ウォーキング大会実施計画、PR活動、参加者へのもてなし、大会を通じてどう町や地域の活性化にどうつなげていくかなどについて話し合った。

<PR活動>：チラシの作成と配布、浜田市広報、新聞、テレビ、ケーブルテレビなどの活用

<もてなし>：ボランティアによる説明と案内、豚汁、ぜんざい、甚左衛門太鼓演奏など

<地域活性化>：桑の木園(福祉施設)、むらじまん甚左衛門(地元産品直売所)、きんたの里(宿泊施設)などとの連携

## ④ 岡本甚左衛門ウォーキング大会の実施

平成20年11月29日(日)実施

ア 当日のウォーキングコース

雲城公民館(出発点)→岡本甚左衛門顕彰碑→新開集会所(第一休憩所)→新開→妙見堤→釣り溝→サイフォン→堀切→長迫堤→新堤(甚左衛門堤)→きんたの里(第二休憩所)→新堤導入水路横穴→よりあい会館(終点) <オプション追加> よりあい会館→導入水路サイフォン跡地→現存する水路横穴→導入水路 掛樋推定場所→雲城公民館



イ 参加者状況

小雨時々曇り、気温4~6度という悪条件で、参加状況を心配したが、100人の参加者があった。スタッフを加えると総勢約150人となった。

#### ウ スタッフ

<受付>：金城自治区6公民館主事  
参加料徴収、ウォーキング絵地図、  
甚左衛門関係の資料、使い捨てカイロの配布（当日気温低く好評）

<コース誘導>：金城自治区6公民館職員

<救護・連絡車>：浜田市教育委員会  
金城分室職員

<案内ボランティア>：ゆかりの地の甚左衛門顕彰碑、新開、妙見堤、釣り溝、サイフォン、堀切、長迫堤、新堤、新堤導入水路横穴の9ヶ所で地域ボランティアによる説明

<もてなし>：新開集会所において豚汁サービス(地域婦人会及び金城中ボランティア)、よりあい会館においてぜんざいサービス(雲城地区食改及び金城中ボランティア) 甚左衛門太鼓演奏(甚左衛門太鼓演奏者会)



#### エ オプションコース

参加者約15人で浜田川から新堤への導入水路(サイフォン跡地、横穴、掛樋推定場所)を訪ねた。

#### オ 地域活性化につなげる試み

とれとれ野菜市「むらじまん甚左衛門」の开店時間延長、「桑の木園」栽培野菜の販売、「きんたの里」入湯割引券の配布など



### 3 事業の成果と課題

この事業を実施した成果は次の通りである。

第一は、大会実施にあたって、地元住民が甚左衛門について学習する機会を得たことである。簡単な学習資料や説明資料は事務局で用意したのだが、案内ボラ

ンティアの中には、自主的に文献にあたり、説明資料を作る人もいた。甚左衛門の生きざまを、広く深く感じてもらう大変よい機会となった。

第二は、ウォーキングそのものに対する関心の高さ・事業としての効果を実感できたことである。あいにくの雨模様で気温も低い状況にもかかわらず、多くの参加者があった。その4割は金城町住人だったが、広く浜田市、江津市、遠くは大阪からの参加もあり、甚左衛門はもとより金城町を知ってもらうよい機会になったと思う。親子での参加や子どもの参加も多く、ウォーキングという大人も子どもも気軽に参加できる企画の中に「地域を知る」要素を取り入れることで、地域への「誇り」を次世代につなげられる企画になりうるという手ごたえを感じた。

第三は、大会を通して、公民館同士の連携・関係が深まったことである。金城自治区内の6公民館が一つの事業に取り組むことで、よりいっそう絆が深まったと思う。また、浜田市公民館連絡協議会が全面的に支援してくれ、広域的なつながりも生まれた。

第四は、地域の活性化に貢献できたのではないかということである。「むらじまん甚左衛門」、「甚左衛門太鼓」などの地域の甚左衛門ブランドとの協調の可能性や、桑の木園、きんたの里などとの連携を模索することで、地域に少しでも貢献できたと考えている。

第五は、学習の広がりが期待できたことである。大会後に大会の参加者が、別の人を誘って見学しにくることもあった。随所の看板、案内板などの整備は、学習の継続性という面でも非常に効果的であると再認識できた。

この事業を通して見えてきた課題をいくつかあげてみたい。

一つ目は、三つの大会を地域力醸成に生かす手法である。特に地域産業との関係強化を図る方法を探っていかなければいけないと思う。

二つ目は、時期の設定である。それぞれの公民館が独自行事を抱えている中で日程調整や、三偉人それぞれの大会の日程調整をどうするかを考えなくてはいけないと思う。

三つ目は、参加者にとって魅力的であり、なおかつ、広く地域住民の協力が得られるようなウォーキング大会の内容の吟味である。

いずれの課題にしても、6公民館が連携・協力していることのメリットを生かし、知恵を出し合いながら、少しずつ解決を図っていきたい。

#### 4 今後の方向性

##### (1) 島村抱月ウォーキングコースの整備

ウォーキングマップが未整備の島村抱月について、久佐公民館スタート・ゴールのコースを整備する。

##### (2) 能海 寛ウォーキングコースの整備

ウォーキングコースが整備してある能海寛について、各歌碑の場所に、能海の業績を紹介する案内板を設置して、全箇所を回れば、能海の偉業の一端がふれられるようにする。